

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 7 0 2 0 2 6 1 8		
法人名	株式会社　じょうてつケアサービス		
事業所名	グループ　ホーム　菜の花　しのろ館Ⅰ		
所在地	札幌市北区篠路3条8丁目9番66号		
自己評価作成日	平成26年10月16日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202618-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社　ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1　あおいビル7階
訪問調査日	平成　26　年　11月　11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の暮らしが施設内だけに留まらず、地域の方との交流をすることで生活の範囲が広まり、地域の一員として暮らしを送っています。散歩や毎日の運動で体力の低下を防ぎ、気持のリフレッシュもできる事で健康維持を図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【管理運営ノウハウを活かした完成度の高いホーム】 多数の事業所を展開している法人は、ホーム運営の研究、職員の養成、理念の徹底に努めてきており、利用者へのケアについて家族の満足と信頼を得ている完成度の高いホームです。 【積極的な地域との日常的交流】 町内会行事への参加、ホーム主催の祭りや菜園作業への住民によるお手伝い、避難訓練の住民協力があり、また、ホームを地域の避難場所として受け入れるなど地域との日常的交流が進んでいます。 【職員間の情報共有と良好な人間関係によるケアサービス】 職員間の良好な人間関係が日常業務において徹底した情報共有を実現し、丁寧に分かりやすく記録されている介護計画などで利用者へのケアサービスに反映しています。 【ゆったりと明るい共有空間による居心地の良さ】 ゆったりと広く明るく、清潔感を維持している居間兼食堂や玄関ホール、利用し易い浴室やトイレなどの共有空間によって利用者は居心地良く過ごしています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	有限会社 ふるさと			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を1日の目標の柱にケアできるよう、実践に努めている。理念への意識を更に強めた事で、利用者様の笑顔が増えている。	法人理念とケア理念を毎朝唱和して職員が共有し、理念に基づく1日の目標を設定して実践に努めています。さらに、日常業務や会議等を通して理念に沿ったケアのあり方を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方も事業所が町内会の一員として意識して下さる方が増えてきている。事業所としても地域行事へ積極的に参加する他、事業所のお祭りに協力をいただき、交流を深めている。	総会や清掃活動など町内会行事に積極的に参加しています。ホーム主催の祭りのお手伝いや菜園の手入れ、避難訓練参加等と住民による熱心な協力があり、地域との交流に積極的に取り組んでいます。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練の際は地域の緊急連絡網にて駆けつけて下さり、利用者様の見守り、保護して下さる住民宅への移動体制ができている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に参加を呼び掛ける機会を増やし、参加をされなかったご家族の参加もあり、意見や感想を聞く機会を得ることができた。	運営推進会議は、複数の家族や地域住民も参加して定期的に開催しています。会議では医療関係や災害対策など関心のあるテーマを話し合い、ホームに関する意見交換を行ってホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの向上に努めたり、法に準じた記録やケアプランが作成できるように、手続き上の事や記録に関しての疑問点を市担当者に質問や相談をし協力を得ている。	ホームは、市の広報活動など諸事業へ積極的に協力しています。管理者は、相談や情報交換を電話等で行っていますが、管理者交代の時は、本社職員と共に行政へ訪問するなど市との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、社内研修で身体拘束の研修にて知識を深め、具体的な行為を理解しており、身体拘束のないケアを行っている。	職員は、外部研修や法人内全体研修を受講して身体拘束をしないケアを理解し、ユニット会議等で具体的事例を確認しながら実践しています。関連のマニュアル類も法人として整備しています。日中に玄関の施錠は有りませんが、センサーによって出入りが分かるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して学んでいる。虐待に繋がらないように、職員間で対応について話し合う他、虐待チェックリストを年1回利用して、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について内部研修で職員が学ぶ機会を作っている。現状では制度の利用はないが、必要時には利用を検討し、制度が利用できるように支援を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本社職員、管理者と共に重要事項や利用契約書の説明を行い、納得したうえで契約を行っている。不明な点など何時でも相談に乗っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会の中で意見を聞く他、面会時に時間をとり、直接意見を聞けるよう努め、利用者様からは、日常会話から意見を伺い、運営に反映できるよう努めている。	利用者の健康状態等ホームでの様子を家族訪問時や電話等で伝え、意見や要望も気楽に話して頂けるよう努めています。家族からの要望等は、申し送りや支援経過表に記載して運営に反映させます。	利用者の様子は、家族へ直接話したり、電話やホーム便りでお知らせしていますが、さらに、利用者一人ひとりの暮らしぶりを伝える方法（ホーム便りに記載又は別紙郵送等）の検討を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議に社長、教育課主任が出席し、職員の意見や提案を聞く機会や、管理者が職員のタイムリーな意見、要望を、管理者会議、リーダー会議で代表者に伝えている。	管理者と職員は、日常業務の中で率直に話し合いをしています。さらに、本社職員や時には法人代表が参加している毎月開催のユニット会議で自由に意見交換を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子供手当や産休産後の子育て支援、在職1年以上の職員にヘルパー資格の費用を会社負担として向上心を持って働ける職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、スタッフ研修、管理者研修、リーダー研修、外部研修などスキルアップに取り組んでいる。研修報告もカンファレンス内で行い、情報を共有して能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区で開催される研修会にて、職員が交流する機会や、区の管理者連絡会に参加し、ネットワークづくりをする他に、代表者が積極的に実践者研修に職員を参加させ、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接、不安や要望をお聞きする他に、ご家族からも暮らしの情報をもらい、全職員が情報を共有し、側で寄り添って不安にならないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な思いや要望をお聞きし、安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者様と直接お話しをする他、ご家族より基本シートで情報をいただき、必要とされる支援や対応を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、食事の下ごしらえ、買い物など一緒にいき、共に生活し助け合い、互いに笑顔で支えあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者様と一緒に支えあい、看取りをすることで、ご家族との信頼関係を更に深めることができた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人、お孫さんやひ孫さんが気軽に訪ねている。居室やリビングにてゆっくりと過ごせるように対応し、関係が途切れないように支援をしている。	利用者の馴染みの美容院、趣味の教室、神社参りなど希望に応じて家族に連絡したり職員が外出支援しています。利用者の知人や家族が来訪の際も、ホーム内でゆっくり過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に新入居時には、関わりがスムーズになるよう、橋渡しを行い、関係構築に努め、室内歩行運動の際には、手をつなぎ一緒に運動を楽しまれている場面も見られる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話や手紙にて関係を継続し、ご家族から介護相談や入居相談などを受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接思いや意向を伺っている。思いや意向を伝えられない方には日頃の言動を職員間で共有し、会議の中や毎日の申し送り時に検討している。	職員は、日常のケアサービスから利用者の思いや意向を把握していますが、さらに、職員間の相談や利用者一人ひとりの「気づきノート」を活用して利用者本位のケアを実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報や診療情報などから把握し、必要な情報があればご家族に情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態の変化を見極め、職員同士で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の思いや意向にあわせ、主治医や歯科医、訪問看護師などのアドバイスをいただき、会議などで検討し、介護計画を作成している。	利用者の担当職員が中心になってモニタリングやアセスメントを行い、ユニット会議でプラン変更の有無を検討しています。プラン変更が必要なときは、家族や主治医とも相談し、利用者の状態に即したプラン作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌、個人記録に記録し、情報共有している。気づきや変化などをアセスメントシートにおとし、介護計画やケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化、看取りなど状況により、24時間対応の訪問診療に変更できるように支援を行う他、ご家族の要望があれば、ホームで通院を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣や、夏や秋のお祭り、藍染めなど、積極的に参加をしている。地域の介護講演にも協働して利用者様と参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望により、病院やかかりつけ医を決めている。事業所の提携医療機関とは、24時間対応できるようになっている。	本社職員の看護師が毎週来初していますが、24時間対応の協力医療機関による定期訪問診療が月2回実施されています。従来からのかかりつけ医受診の際は家族又は職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に、日々の変化や往診時の記録などで報告し、相談し助言をもらい利用者様の健康維持のため連携している。状況により、看護師が主治医に直接相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の情報提供により、安心して治療が受けられるように支援している。定期的に病院に訪問し、利用者様との関係維持と病院関係者との情報交換を行っている。退院後も連携して生活支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の方針についての説明、同意をいただいている。看取りを行ったが、常にご家族と連携を取り、不安や希望をその都度話しあっている。	入居時に重度化や終末期の指針を説明し、同意書を頂いています。利用者の状態変化に応じて家族や主治医と相談し、今後の支援について家族と意向書を取り交わしています。ホームは過去に看取り事例があり、職員もホームの方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習、内部研修を定期的に行い急変時に備えている。急変した利用者様がおり、実際に心臓マッサージを行ったこともある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年4回実施、1回は地域住民、消防団が参加しての訓練を実施している。災害時の避難場所の把握のほかに事業所に避難受け入れ可能であることを地域住民に伝えている。	年4回の避難訓練を実施し、住民も参加しています。ホームを地域住民の避難場所として受け入れており、暖房機器や発電機、備蓄品類も準備して、自然災害にも備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時脱衣の際にタオルをかける、食事の食べこぼしや介助の際はさりげなくサポートする等、配慮している。	職員は、利用者の入浴、排泄等のケアサービス時の言葉かけの仕方など誇りやプライバシーを損ねないように十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方でも選択肢の中から選んでもらうなど、できるだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを送れるよう、業務の改善や柔軟に対応ができるよう、職員間のチームワークを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的にお化粧、ヘアスタイル、洋服の好みや希望を大切にした支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特に、刻み食やミキサー食の利用者様の食事は、見た目や味、食器の工夫を行っている。食器拭きや下ごしらえも一緒に行っている。	栄養バランスやカロリーを配慮した献立が立てられており、季節行事や庭での食事には利用者の希望も取り入れています。また、外出行事などで外食の機会もあり、食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や嚥下状態により、食事の形態を変え、栄養摂取ができるよう支援している。水分摂取は個々に合わせて提供、水分量も毎日把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを支援している。毎食後の歯磨きや歯茎磨き、口腔洗浄剤の使用、歯科医師への相談を行い、清潔保持を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツの使用がないように支援しているが、オムツが必要な方でも排泄の間隔を把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。	利用者の特別な事情以外は出来るだけ日中のおむつを使用を避け、一人ひとり排泄パターンを把握して、表情や行動等も見極めながら誘導してトイレ排泄となるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による影響は職員全員が把握している。青汁、便秘体操を取り入れる他に、量や周期、形状も観察、状態により看護師や医師に相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけのタイミングや時間を空けての声かけ、個々に合わせた温度や入浴剤を使用するなど、気持ちよく入浴ができるように対応している。	週2回以上の入浴を基本として、利用者の希望する時に実施しています。入浴を嫌がる利用者には、日時や担当者変更、利用者好みの入浴方法（入浴剤等）を工夫して実施し、身体の清潔維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った室温明るさに配慮眠れない際は、お話しや温かい飲み物をお出しする他、日中は適度な運動等を取り入れ安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用はしっかり把握するようにしており、特に新処方薬は副作用がないか体調の変化を観察し、変化時は早急に医師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を活かした家事やレクリエーションに参加されている。散歩や外出行事等の楽しみや、気分転換できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、時間を決めずに散歩に出かけられるように支援している。地域の方とも顔馴染みになっており、地域行事に参加すると、声を掛けて下さり、楽しく参加することが出来ている。	天候状態に合わせてホーム周辺散歩や近隣住宅のホームガーデン見学をしており、住民からも快く応対して頂いています。また、車両を利用して各地の公園やお祭り見学、地域行事に参加するなど出来るだけ外に出る機会を持つようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際には、自分で品物を選んでお買い物をしていただき、自らレジで支払いをして、買い物を楽しむ機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に友人と手紙のやり取りをされており、継続ができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度、明るさに配慮し、季節の行事を取り入れたり、利用者様と庭の花を摘んで、生けていただき、リビングに飾り季節を感じていただいているようにしている。	居間兼食堂や廊下、玄関ホールは明るくゆったりとしており、浴室、トイレ、洗面台も利用し易い共有空間となっています。居間兼食堂には、手づくり作品や季節の飾りがあって親しみのある雰囲気の中で利用者はゆったりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の気分により、自由に過ごしている。利用者様の希望や状態変化により、環境整備をしてくつろぎの空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染んだ物、ご家族の写真などを持ち込んでもらい、少しでも安心して生活できる空間をつくれるように配慮している。	クローゼットが設置されて整理しやすい居室内に、利用者は整理タンス、机、テレビ、ソファなど馴染みの家具や物品に囲まれてのんびりと安心して暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりもあり、車椅子の方が動きやすいように工夫する他に、トイレや居室などがわかるように表示をしている。		